指導事項・言語活動例 教材名	A話すこと・聞くこと								B書くこと								
	指導事項					言語活動例			指導事項						言語活動例		
	ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。	イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。	ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。	エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。	オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。	ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。	イ 調べたことやまとめたことについて、討論などをすること。	ウ 事物や人物を推薦したり、それらを聞いたりすること。	ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。	イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。	ウ 事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。	エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。	オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。	カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。	ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。	イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。	ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。
つないで，つないで，一つのお話				◎													
支度																	
カレーライス																	
漢字の広場①													•				
春のいぶき									○				•		★		
笑うから楽しい／時計の時間と心の時間																	
学級討論会をしよう（伝えにくいことを伝える）				○	◎		★										
漢字の形と音・意味																	
私と本／森へ（施設を利用して，本の世界を広げよう）																	
漢字の広場②													•				
河鹿の屏風																	
夏のさかり									○					•	★		
ようこそ，私たちの町へ									○	◎	•	○	•	•			★
せんねん　まんねん																	
熟語の成り立ち																	
たのしみは													◎	◎	★		
漢字の広場③													•				
未来がよりよくあるために（平和のとりでを築く）					◎				○	◎		○				★	
漢字の広場④													•				
生活の中の言葉																	

〔６年前半〕

C読むこと										伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項												
指導事項						言語活動例				ア伝統		イ言葉の特徴やきまり									ウ文字（漢字）	
ア　自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。	イ　目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。	ウ　目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。	エ　登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。	オ　本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。	カ　目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。	ア　伝記を読み、自分の生き方について考えること。	イ　自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。	ウ　編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。	エ　本を読んで推薦の文章を書くこと。	ア　親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。	イ　古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。	ア　話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。	イ　時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。	ウ　送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。	エ　語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。	オ　文章の中での語句と語句との関係を理解すること。	カ　語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。	キ　文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。	ク　日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。	ケ　比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。	ア　第５学年及び第６学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	イ　仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。
																	•					
◎																				○		
			◎	○													•					
																					◎	
																	◎					
		○		◎			★											•				
																	•					
																					○	◎
				○	◎											•		•				
																					◎	
			◎														•					
																	◎					
																		•				
◎																				○		
															○						○	
											○						•					
																					◎	
												•										
																					◎	
													◎						◎			

教材名＼指導事項・言語活動例	A話すこと・聞くこと								B書くこと								
	指導事項					言語活動例			指導事項						言語活動例		
	ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。	イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。	ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。	エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。	オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。	ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。	イ 調べたことやまとめたことについて、討論などをすること。	ウ 事物や人物を推薦したり、それらを聞いたりすること。	ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。	イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。	ウ 事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。	エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。	オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。	カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。	ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。	イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。	ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。
やまなし（イーハトーヴの夢）																	
秋の深まり									○					•	★		
『鳥獣戯画』を読む（絵画や写真を見るときには）																	
この絵，私はこう見る									○		○		◎				★
漢字を正しく使えるように（覚えておきたい言葉）																	
伝えられてきたもの／狂言 柿山伏／「柿山伏」について																	
日本で使う文字																	
漢字の広場⑤													•				
表現を選ぶ														•			
天地の文																	
未知へ																	
自然に学ぶ暮らし																	
漢字の広場⑥													•				
忘れられない言葉									◎		◎				★		
カンジー博士の山登り																	
春を待つ冬									○				•				
海の命																	
今，私は，ぼくは（効果的な資料を提示する）	○	◎	◎	○		★											
中学校へつなげよう／生きる／生き物はつながりの中に／かなえられた願い――日本人になること																	

〔６年後半〕

C読むこと											伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項														
指導事項						言語活動例					ア伝統		イ言葉の特徴やきまり									ウ文字(漢字)			
ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。	イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。	ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。	カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。	ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。	イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。	ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。	エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。	ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。	イ 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。	ア 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。	イ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。	ウ 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。	エ 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。	オ 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。	カ 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。	キ 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。	ク 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。	ケ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。	ア 第５学年及び第６学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	イ 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。
◎	○		○														○	•		•				
																	◎							
		◎		○			★									•								
																•								
														•								◎		
○										◎	○		•										•	
																							◎	
																						◎		
												◎						○						
										◎	○													
○			◎																	○				
		◎		○			★											•						
																						◎		
																		•						
														○								◎		
																	◎							
			○	◎														•						
																		•	○					
○				◎												•				○				